

こんな本を読んできました



タイトル 長浜高校水族館部！

著者 令丈ヒロ子 文
紀伊カンナ 絵

出版 講談社 2019年

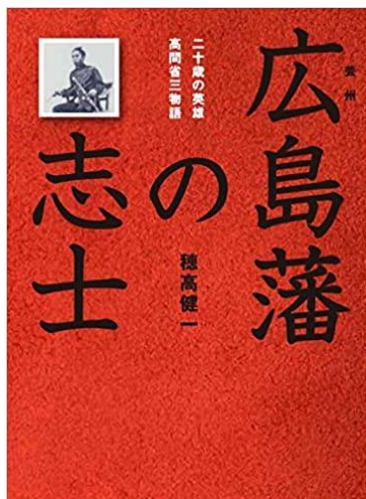
愛媛県には長浜高校水族館部の部員たちが運営している『長高水族館』があります。高校生が毎日百種以上の魚たちのお世話をし、研究しながら繁殖させています。そして月に一度、一般に公開して、お客さんたちに生態の説明やショーの披露をしています。この物語は、『長高水族館』で奮闘する彼らをモデルにして作られています。

物語の中に出てくる研究や出来事は、実際に起こったことばかりです。入部当初のやる気に満ちた様子から、活動していくうちに立ちは大かかってきた壁に向き合っていく様子は、実際の部員たちの声をもとにしています。奮闘する彼らの姿に、高校生の持つみずみずしい底力を感じると同時に、どうにもならないことへのやるせなさやもどかしさに共感して、懐かしい苦みも思い出しました。だから、子どもだけでなく大人の人にもおススメ。

日本で唯一！部活動で水族館を運営して青春を過ごす高校生の姿を、ぜひ読んでみてください。

呉市の歴史と関わりのある作家や事柄の
所蔵資料を紹介します。

郷土資料



タイトル 広島藩の志士
二十歳の英雄・高間省三物語

著者 穂高 健一

出版 南々社 2018年

様々な人物が己の思想をかかげ、日本の未来を憂い活躍した幕末。広島では何がおこっていたのだろう、と思ったことはありませんか？

土佐や長州といった幕末史では何度も目にし、本やテレビでもお馴染みの藩が近隣に存在する中で、広島藩がどのような立場にあったのか描かれるのは稀なことです。

しかし本書は、その空白部分を埋める一助となるかもしれません。

浅野家の家史である『藝藩志』をもとに書かれたこの作品は、混迷を極めたこの時代の最中の、広島藩の姿を描くとともに、高間省三という若い藩士に焦点をあて、彼が国や愛する人のこれからを思い戦った姿を描いています。

そこには戦があり、人の死があり、日本という国が変わる中で無傷ではいられなかった人々の姿があります。

歴史の片隅に置き去りにされてきた広島にきつとみなさんの心も熱くなるはずですよ。

呉からほど近い地名なども登場し、ここでも確かに歴史が動いていたんだ！と思わせるワクワク感もありますよ。